２０２５年度　第6回　運　営　推　進　会　議

事業者名 住所	名称：　社会福祉法人　聖隷福祉事業団 住所：静岡県浜松市中区元城町218番地26
事業所名 住所 サービス種類	名称：聖隷看護小規模多機能横須賀 住所：横須賀市武3-39-1 サービス種類：看護小規模多機能型居宅介護
開　催　日　時	2026　年03月　12　日　　14：00　～　15：00
開　催　場　所	横須賀愛光園　事務所2
出席者内訳	利用者・家族　（0人） 武山地区社会福祉協議会副会長　　氏名：米山　豊平様 西第一地域包括支援センター　　氏名：髙橋　亮平様 西第二地域括支援センター　　氏名：角井　大介様 聖隷訪問看護ステーション横須賀　　氏名：久保田　南美様 横須賀愛光園　横須賀愛光園園長　　氏名：草間　理子 聖隷看護小規模多機能横須賀　管理者　　氏名：樋口　範子
運営状況報告 1月　2月	登録人数19　名　（入院3名） 通い　泊り　訪問介護　訪問看護　実績報告 要介護度別　人数
職員体制	看護師　9人　聖隷訪問看護ステーションと兼務 介護員　9人 ケアマネジャー　1人　管理者と兼務
活動報告	豆まき　外出レク
課題、意見及び助言等	
次回運営推進会議	2026年05月14日（木）14：00～15：00　予定

議事録

会議名	２０２５年度　第６回　運営推進会議	園長	介護	事務	担当長
日　時	令和　８年　３月 12 日 14：15　～15：00	司会	樋口	書記	久保田
場　所	横須賀愛光園　事務室２				
出席者	武山地区社会福祉協議会副会長：　米山、西第一地域包括支援センター：　高橋、第二地域包括支援センター：　角井、聖隷訪問看護ステーション横須賀：　久保田、横須賀愛光園：　草間、聖隷看護小規模多機能横須賀　：樋口				
欠席者					

議題

1. 運営推進会議
2. 利用者の推移と状況報告
3. サービス提供状況
4. 地域連携・医療連携
5. イベント・外出支援活動
6. 自己評価と市からの評価フィードバック
7. 今後の課題と改善計画

1. 運営推進会議

利用者の推移

1 月: 18 名　　2 月: 19 名

- 平均介護度: 1 月 2.78、2 月 2.84
- 介護度 3 程度の利用者を目標としているが、認知症の方や要介護 5 の方も多く、二極化している状況

終了者の状況

1 月の終了者（1 名）

- 認知症が悪化し、自宅での生活が困難に
- 配偶者の介護負担が限界となり、有料老人ホームへ入所

2 月の終了者（1 名）

- 認知症が進行した独居の方
- 「知らない人が家に入っていた」ということもあり、特別養護老人ホーム（愛光園）へ入所

- 歩行は可能だが、食事動作も分からなくなる状態で要介護認定５
- 在宅生活が困難と判断され、当施設で泊まりを利用しながら入所待ちをしていた

● 質疑応答

質問: 平均介護度３を目標にしているが、特に３にこだわる理由はあるか

回答: 介護度３程度の利用者を支援したいと考えているが、要介護１からの利用希望があれば受け入れる。数字は結果的なものであり、必要な方を支援することが優先

２．サービス提供状況

サービス回数

- 訪問、通い、泊まりのサービス回数に大きな変化なし
- 訪問看護の緊急対応: １月・２月ともに４件
    - 主に２名の利用者に対する対応
    - 内容：排便トラブル、認知症症状悪化による家族からの SOS

泊まりサービスの利用状況

- １名が月単位で泊まりを利用中
- 配偶者が誤嚥性肺炎で死亡後、認知症のため独居生活が困難に
- 有料老人ホーム（津久井浜）への入所を４月第２週頃に予定
- １ヶ月以上泊まっているが、トイレや部屋の場所が分からない状態
- 日中は問題なく過ごせており、１時間おきのトイレ誘導で対応

質疑応答

質問: 事業所での課題は何か

回答: 送迎の問題が大きい。１人の利用者に対してピストン送迎を３回行うケースもある。お風呂だけ利用して帰る方もおり、11 時に迎えに行き１時に帰すような対応も。道が狭い、車椅子対応など、２名体制で送迎することもあり、時間がかかる

3. 地域連携・医療連携

看護と介護の連携

- がん治療中の利用者について、看護師から介護スタッフへ病状説明を実施
- 利用者本人と配偶者ともに認知症があるケースで、丁寧な対応を実施

サービス内容の変更

- 病院付き添いケアが増加
- 認知症により医師の説明が理解できない、伝えられないケースが多い
- ヘルパーが付き添い、医師の説明を聞き取る支援を実施

がん治療中の利用者

- 現在２名が抗がん剤治療中
- １名は要介護１で週２回の通いを利用
- デイケアからの移行（がん治療開始によりデイケアが利用不可に）
- 通院同行や副作用への対応を看護師と連携して実施

質疑応答

質問: 看取り期の受け入れは可能か

回答: 現在スタッフ人数が足りず週末対応が難しい。点滴継続の必要性について、医師の方針か家族の希望かを確認する必要がある。在宅看取りでは点滴を外すこともあるため、方針の確認が重要

4. イベント・外出支援活動

初詣・外出支援

- 杖歩行可能な３名を諏訪神社へ初詣に同行
- 帰りにイオンで買い物、コメダ珈琲でお茶
- 利用者から好評

外食支援

- 車椅子利用者２名をはま寿司へ同行
- １名は配偶者と待ち合わせて夫婦で食事
- １名は看護師・職員同行で外食体験

施設内イベント

- 豆まき：赤鬼が来訪、豆まきゲーム実施
- 訪問介護時間中の利用者宅へも鬼のお面をかぶって訪問
- 正月飾り：門松を花で作成、賽銭箱を設置
- 散髪サービス：理容師に来訪してもらい施設内で実施（車椅子利用者など外出困難な方向け）

その他の外出

- 川津さくら・菜の花見学：車内からの鑑賞

今後の方針

- 全員が参加できるよう、様々な企画を継続検討

5. 自己評価と市からの評価フィードバック

市からの総合評価

- 全体的によくできている、適切に取り組まれている
- 相対的に自己評価が低い項目について改善計画への位置づけを推奨

運営推進会議への職員参加（評価項目③）

市からの指摘

- 全職員の参加は難しいが、出席した職員から情報共有や会議での意見・要望を職員全体へ返答することが大切

対応

- 議事録の置き場所を見やすい場所に変更
- 職場会議で内容を報告
- 重要事項は目につくように掲示
- 詳細を知りたい職員はいつでも議事録を閲覧可能にする

サービス提供等の評価

市からの評価

- 利用者の特性変化に応じた専門的サービス提供ができている
- アセスメントに基づき利用者に寄り添った計画作成とサービス提供ができている
- 状況変化への迅速な対応、介護職と看護職の連携が図れている
- 医療機関との連携も良好
- 継続を期待

評価が低かった項目と改善策

項目 31：包括的サポートについての情報提供・提案

- 「全くできていない」「あまりできていない」という評価が多い
- 原因：職員個人が直接地域の民生委員や行政と関わる機会が少ない
- 実際は管理者を通じて連携しているが、職員個人の実感として評価が低くなった

改善策

- 設問の趣旨を職員に説明し、間接的な連携も含めて理解を促す
- 武山地区の民生委員や町内会長との連携を検討
- 運営推進会議への地域関係者の参加を促進

項目 32：運営推進会議の記録の情報発信

- 議事録を誰でも見られる方法での情報発信が不十分
- 職場会議では報告しているが、議事録自体を見ていない職員が多い

改善策

- 議事録の置き場所を見やすい場所に変更済み
- 職場会議で「議事録を必ず見るように」と周知
- 重要事項は掲示で共有

項目 36：医療的ケアへの対応

- 喀痰吸引、胃瘻には対応しているが、人工呼吸器には対応していない
- 一部職員が設問を誤解して評価した可能性

改善策

- 医療的ケアの種類について職員への説明を徹底
- 人工呼吸器と酸素療法の違いなど、用語の理解を促進

質疑応答

質問: 民生委員全員に声をかけるのは大変ではないか

回答: 武山地区の代表的な民生委員や町内会長に参加してもらう形で良いのではないか。全員への声かけは現実的ではない

質問: 職員個人が医師と連携していないという評価について

回答: 看護師が医師と連携し、その内容をノート等で共有している。ヘルパーが看護師に相談し、看護師が医師に相談する流れも連携に含まれることを職員に説明する必要がある

---

6. 今後の課題と改善計画

地域との連携強化

- 民生委員や地域関係者への情報発信を強化
- パンフレットの配布や施設見学の受け入れを検討
- 町内会会長や民生委員代表に運営推進会議への参加を依頼

職員の理解促進

- 自己評価項目の趣旨を職員に丁寧に説明
- 間接的な連携も含めて「連携している」と認識できるよう教育
- 医療用語や制度についての理解を深める研修を実施

在宅生活の継続支援

- 泊まりサービス利用時も自宅での生活を完全に切らさない工夫
- 訪問診療時に１泊自宅に帰す取り組みの検討
- 家族の在宅介護継続への支援強化

利用者の確保

- 要介護３程度の利用者を中心に受け入れを継続
- 要介護１からの利用希望にも柔軟に対応
- フル稼働を目指す

決定事項

- 来年度は地域の行事企画段階から参加することを目指す
- 自己評価結果を職員会議で共有し、改善計画を策定
- 評価結果を市へ提出
- 議事録の置き場所を見やすい場所に変更し、職員への周知を徹底
- 地域関係者（民生委員、町内会長等）への運営推進会議参加を依頼

次回　2026年5月14日　14：00～15:00